

# 新年を迎えて

みなさん、新年あけましておめでとうございます。

今年のお正月は、久しぶりの故郷で、あるいは旅先で迎えている方もいらっしゃるのではないかと思います。足掛け3年にも及ぶ新型コロナウイルスとの闘いは、私たち人間の科学的進歩と、日本人ならではの自制心などにより、いよいよ終焉に向かっていくように感じます。空手の練習や大会も、徐々にではありますがかつての熱気を取り戻しつつあります。今年はさらに、心おきなくいい汗を流せるよう、みんなで力を合わせて活動を盛り上げて行きましょう！

昨年の出来事を振り返ってみると、ほんとに様々な出来事がありました。2月には「ロシアによるウクライナ侵攻」が始まりました。これに対し西側諸国を中心にロシアに対する経済制裁などを実施してきましたが、未だにロシアの暴挙が終息する見通しは立っていません。また、このウクライナ侵攻とほぼ同時に進行した諸物価の高騰が私たちの生活を直撃しました。そんな状況下、中国では習主席が異例の3期目へと突入し、日本を含む極東アジア地域の軍事的緊張感が益々高まっています。そんなやや暗い雰囲気が進んできた2022年は、FIFAワールドカップ大会における日本チームの、ドイツ、スペインを破る活躍で救われた感じがします。

一方、私たち錬聖会を見てみると、4月からスタートした『合同練習会 & 体験入門コース』は、予定通り、毎月1回のペースで開催、今後の活動の基盤となったものと感じています。また、再開しつつある各大会では、当会理事の大浦選手と同指導員の橋本選手が5年ぶりに国体へのW出場を果たしました。さらに、招待試合の丹有大会では、一般男子組手団体で優勝するなど、参加選手は久々の大会で優秀な成績を収めてくれました。



では、今年は・・・干支は『癸卯（みずのと・う）』、十干が「癸（みずのと）」、十二支が「卯（う）」です。「癸」は、小寒、閑静、渋滞といったことを表し、「卯」は草木が地面をおおうようになった状態を表しているようで、「寒気が緩み、萌芽を促す」・・・つまり『**厳冬が去り春の兆しが訪れる**』ことを表しているらしい。

今年こそ、長引く閉塞感を払しょくし、新たな飛躍の年にしたいものです。



さて、私ごとではありますが、昨年12月、65歳になったことを機に東京での単身赴任状態を解消し、奈良の自宅に戻りました。実に17年ぶりです。今後は活動の中心を関西としたうえで、錬聖会空手の普及活動に専念したいと考えています。もちろん、東京道場も引き続き担当し、月に数度は東京～奈良を往復する計画です。今年も、ぜひ、皆さま方と一緒に、空手修練の場としての“錬聖会”を維持・強化し、当会が皆さま方にとってより良い活動の場・成長の場になるよう努めて参ります。65歳といえ、国の定義では「高齢者」・・・しかし、空手に対する情熱を持続しつづけている限り、“ひとりの修行者”でいたい・・・現在の、私の心情です。

今年が皆さまにとって素晴らしい年であることを祈念すると共に、引き続き、錬聖会に対するご支援とご協力をお願い申し上げます。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。逞(たく)ましき意志、優れた創造力、炎ゆる情熱、怯懦(きょうだ)を却(しりぞ)ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こういう様相を青春と言うのだ。年を重ねるだけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。

(中略)

人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる。人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる。希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる。大地より、神より、人より、美と喜悦、勇氣と壮大、そして偉力の靈感を受ける限り人の若さは失われない。

(以下略)

「青春の詩」 サムエル・ウルマン作・松永安左工門訳

2023年 1月 1日



日本空手道錬聖会  
会長 森 拓生